

- 1日、フィラト首相のウクライナ訪問

A . 主な動き

1 . 内政

▼議会・政府の動き

・1日、ヴォローニン前大統領は、ツルカン議員他の共産党離脱及びウンティ「我々のモルドバ」同盟副代表の同盟離脱は、共産党と民主党に対抗したフィラト首相の指示によるものと発言。

・3日の閣議で、2度連続で選挙に不参加、又は党員数より少ない得票数の政党の解体を義務づける政党法22条の規定を廃止する修正法案が採択。

▼その他

・3日、レシェニコフ元情報安全保障庁長官は、検事総局での調査において、情報安全保障庁の活動により4月7日の暴動での流血が避けられたと発言。

・2010年1月現在のモルドバ(沿ドニエストル地域を除く)の人口は356万4000人で、昨年同時期から3,000人の減少。

・2010年1月の沿ドニエストル人口(推計)は、昨年比5,000人減の52万2500人。

2 . 沿ドニエストル

▼ロシア連邦保安庁(FSB)将校逮捕事案

・3日、ヤストレプチャク沿ドニエストル「外相」は、ウクライナにおけるFSB将校逮捕事案に関し、本事案が沿ドニエストルにおける平和維持活動に影響を与えるべきではないと発言、本事案の影響を最小限度に抑えるよう期待を表明。逮捕されたFSB将校は、沿ドニエストルで活動するとともに沿ドニエストルからウクライナに入国、逃走手段に沿ドニエストル地域ロシア軍作戦集団(OGRV)配属のFSB将校3名が乗車している車両を使用したとされている。

▼その他

・1日、ギンブ大統領代行はヌルガリエフOSCEカザフ議長国代表と会談、沿ドニエストル問題解決のためには非軍事化と民主化が不可欠と発言、EU及び米国のより積極的な関与を懇願。

・4日、2月11日に予定されているモルドバとの専門家協議を前に、沿ドニエストルは同領域を通過する鉄道の運行再開を主張。

開を主張。

・5日、フォルムザル・ガガウズ自治共和国首長は、ギンブ大統領代行に対し、国民投票による憲法改正を実施し、モルドバ、ガガウズ及び沿ドニエストルの3主体からなる連邦国家体制を受け入れるよう提案。

3 . 経済

・2日、2009年の平均給与は前年比8.7%増の2748.4レイ(約219.9ドル)であったと国家統計局が発表。

・2日、IMFは2010-2012年の期間に対する覚書に基づいて2010年にモルドバに対して1億5000万ドルを計上すると発表。同資金は財政赤字や中央銀行の外貨準備高補充向け。

・4日、シャラル環境相は環境保護や廃棄物、科学物質及び水に関する法律制定が環境省の優先事項であるとし、2010年に環境保護に対して10億レイを支出する予定であると発言。うち、5%が国家予算により手当され、残りが国際機関から供与される予定。

・5日、モルドバ・露貿易経済協力会議がラザル副首相兼経済相及びフルセンコ露教育科学相の共同議長のもとで開催。両国の貿易、露からの1億5000万ドルの資金援助等について協議。

4 . 外政

▼1日、フィラト首相のウクライナ訪問

・ティモシェンコ首相と会談。

・ティモシェンコ首相は「ウクライナとモルドバは国境画定問題を2月中に解決しなければならない。最初の技術的作業は既に開始された」と発言。

・フィラト首相は「モルドバは国境画定を欧州統合プロセスとしてばかりでなく、独立国家としての主権を強化するものとして認識。沿ドニエストル問題におけるウクライナの重要な役割を高く評価。ウクライナとモルドバは、両国市民の査証免除に向け共同でEUに働きかけるべき」と発言。

B . その他の動き

1/30 (土)

・モルドバ政府は、アフガニスタン戦争時に行方不明となった

モルドバ出身兵士の捜索継続のための予算支出を決定。統計によるとCIS加盟国の約270名の兵士がアフガニスタン戦

争中に行方不明になっており、内4名がモルドバ出身兵士。

集会の自由の侵害を訴えていた。

3 / 2 (火)

・欧州人権裁判所は、政府に対しキリスト教民主人民党へ4000ユーロの支払いを指示。キリスト教民主人民党は6年前、

2 / 5 (金)

・約20名の社会民主党活動家が同党からの離党及び民主党への参加を表明。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。
(了)